

西中学校区 保幼小中連携通信

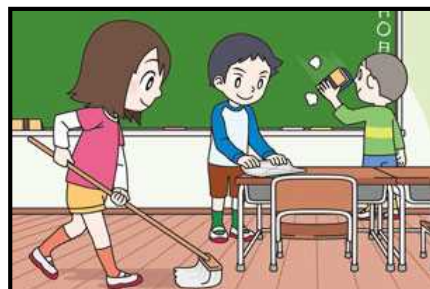
グローイングアッププラン 2年目 [点を明確にするブロック連携]

第4号 平成30年12月 3日 発行責任者 福田 ・ 黒岩
(西中学校区連携コーディネーター)

～ 道徳と特別活動の違い ～



採用された小学校の道徳の教科書の出版社の光村図書のHPに次のようなことが載っています。(中学校は日本文教です。こちらのHPには載ってませんでした)



質問 16 “道徳” と “特別活動” は、どんなところが違うの？

“道徳”科の最終的な狙いは、道徳性の育成であり、“特別活動”は自主的、実践的な態度を育て、自己を生かす能力を目指している。

また、次のように続いていました。

この二つの目標を照らし合わせると、確かに「自己（人間として）の生き方についての考えを深め」と、全く同一の文言が使われているので、一部では、道徳科と特別活動は同質の教育活動といえるでしょう。しかし、ねらいは異なるので、同じ教育活動とはいえません。

言い換えれば、特別活動は、道徳と同質的な活動の部分があるため、ねらいに道徳的価値を含む場合がありますが、全てのねらいに道徳的価値を含んでいるわけではありません。例えば、学校行事の運動会のねらいには、友情、協力などの道徳的価値を含む場合がありますが、「体力向上」のように道徳とは直接関わりのないねらいもあります。また、運動会での係り決めも道徳的問題ではなく、学校生活上の諸問題といえます。このように、特別活動では、道徳的価値を含む場合もあるし、含まない場合もあります。これに対し、道徳科は、道徳的な問題について考え、道徳性の育成を目指します。よって、道徳科で、ある問題について考え議論したとしても、その問題が道徳的な内容を含んでいなければ、道徳科の授業とはいえません。そのような場合、「特活みたいな授業」と評価されることになります。

さらに、道徳科と特別活動における学級活動（学活）では、以下のような違いを見いだ

すことができます。道徳科も学活も話し合いを通して学ぶことを基本としています。道徳科の目標は道徳性の育成ですから、学級での深まりのある充実した話し合いを通して、最終的に一人一人の児童生徒の道徳性を育んでいくことを目指します。これに対し、学活では、個々の問題として考え、個に帰着させる場合もありますが、集団決議をすることも多々あります。学活で、十分に話し合いをした末に、ある問題に対してクラスとして集団決議したとします。すると、それまでは反対意見を唱えていた人も決まった内容に従い、生活を送ることになります。道徳科は、一人一人に着目して道徳性の育成を目指す「個の視点」であり、学活は、集団決議をして、その決められたことに則って行動する「集団の視点」であることも異なる点でしょう。

「ボクのおとうさんは桃太郎 というやつに殺されました」

これは 2014 年に新聞広告クリエイティブコンテストの最優秀賞作品「めでたし、めでたし？」のコピーです。普通では、桃太郎は正義の味方で表現されていますよね。都を荒らす鬼を退治した“ヒーロー”ですが、鬼の子ども（いたとすれば…）からしたら、自分の親を殺した張本人が“悪人＝桃太郎”になります。「物事を眺める視点を変えて考える」ための教材として活用できるかもしれませんね。



このように身近なところに道徳の教材として使えるものはあると思います。立命館の荒木先生から、いろいろなものを書籍等で紹介されています。

例えば「SEKAINO NO OWARI」の「天使の悪魔」という歌を用いた授業です。

「いじめは正義だから悪をこらしめているんだぞ」

「もし僕が正しくて君らが間違いなら 僕らは戦う運命にあるの？」

僕らはいつも『答』で戦うけど 2つあって初めて『答』なんだよ」

「いじめは正義」という衝撃的な言葉をきっかけに「正義って何だろうか？」というところを取り扱ったそうです。

また、『J-POP で創る中学道徳授業』（明治図書）という本も出ています。中身を見た訳ではないので、どこまで利用できそうなのか分かりませんが、目の前の子どもたちにもっとも合う教材はなにか、教科書を補完するような教材はないだろうかと、日常生活にアンテナを張り巡らしておくことが大切なのかもしれませんね。

